

宮内彩の New Zealand Style no.13

Helen Cherry

私がヘレン・チェリーの服と初めて出逢ったのは、ハイストリートとヴァルカンレーンの角にあるワークショップの店。いつもセンスの良いウィンドウに惹かれ、前を通れば覗いてみた。

ヘレンはヘレン・チェリーのブランドをデザインし、ご主人のクリスはワークショップとワークショップデニムのデザイナーだ。

「今回はレトロな雰囲気で、40年代を意識したコレクションでした」とヘレンは話す。いつも素材からデザイン作業を始めるという彼女は、今回ピーコックブルーの生地を中心にコレクションを作り上げていった。鮮やかな色に、コントラストの強い赤のタイツを組み合わせるキャットウォークで見せた。また、今回のポイントに毛皮使いがある。

「昨年の冬、初めてラビットの毛皮使用したのですが、それがとても好評でした。今年はもう少しクラシックでヴィンテージ風なスタイルを提案してみました」と話す。

美容師の母を持つヘレンは、幼い頃からファッションの世界に興味を持っていたという。「ウェリントンのポリテクでファッションを学んだ後、仕事を探しました。当時、ウェリントンにはファッションビジネスは皆無で、家族もオークラ

ンドにいたので戻ってきました。いくつかアルバイトをした後、ザンベシに務めることになりました。リズの元で4年半働き、ザンベシも若いブランドでしたし、色々と学ぶことができました。」ザンベシで仕事をしている時、既にビジネスを立ち上げていたクリスと恋におち、「ザンベシを辞め、クリスの会社で働くことは、とても自然な決断でした」と振り返る。

NZのファッションウィーク(NZFW)への参加は今回が初めてだが、ヘレン・チェリーのブランドは誕生して7年、会社自体は既に24年目を迎えている。「11年間『ストリートライフ』というブランドを手がけていました。97年に、そのブランドが「ヘレン・チェリー」としてリニューアル・デビューしたのです。」過去3回のNZFWに参加できなかったの

は、妊娠、出産、子育ての為。ヘレンは12歳と2歳半の息子を持つ、ワーキングマザーなのだ。「98年から2000年までの3年間はオーストラリアでショーを行っていました。今回はタイミングも良く、再びビジネスを拡大させる準備ができたので、参加を決意しました。」好評を得たコレクションはメディアにも大々的に取り上げられ、ニューヨークでも、オーストラリアでも新しいクライアントを獲得した。



Profile photo Yui Hori

宮内彩 東京生まれ。西町インターナショナルスクールを経て、スイス、ル・ロゼ高校、米タフツ大学卒業。帰国後、パリ・ミラノ等世界のコレクションを取材。雑誌・新聞・テレビ・ラジオ等でファッション・コラムニストとして活動。オークランド在住の中村嗣氏と結婚のため、2000年より生活の拠点をNZに移動。01年、長男・章人君。02年、次男・天人君誕生。子育ての合間を見て、旅・食・住等ライフスタイル全般のコラムニストとして英語及び日本語で執筆活動を続けている。著書は近代文藝社「おしゃれのエッセンス」「おしゃれのエッセンス旅コレクション」(母・大内順子と共著)等。NZでの生活のエッセイが載っているホームページは www.ouchi-junko.com

WORK

ツイードのジャケットは今年のトレンド。プリントのスカートと合わせて個性的に。

ジャケット \$629
スカート \$298

RELAX

こんな心地の良いロングカーディガンは、家でも、仕事でもリラックスした気分が楽しめる。

ニットジャケット \$329
ベルト \$98
スカート \$298

Weekend

ラプリーなイメージのカーディガンは、わざとボタンを掛け違えてみて。

キャミソール \$110
レースキャミソール \$229
カーディガン \$269
スカート \$298

FORMAL

少しフォーマルな装いにはレパード柄の黒いジャケットとスカートを一枚。

サテンスカート \$298
ベルベットジャケット \$679
ブラウス \$259

SHOPPING

今年一枚は絶対に欲しいトレンド。街を歩くときの必需品です。

トレンドコート \$779

WORK

テーマカラーのピーコックブルーの鮮やかなコート。インナーにも同色を使ったプリントを。

コート \$829
ドレス \$429

ELEGANT

クラシックなラビットファーのジャケットはカジュアルにも、エレガントにも着こなせる一品。

スカート \$329
ファージャケット \$1579
ベルト \$98

DINNER

トレンドなアニマル柄のラップドレスでフェミニンに。

ドレス \$429



ヘレン・チェリーを着るのは都会的で、インテリジェンスとスタイルのセンスを併せ持つ自信をもった女性。ティーンエイジャーから60年代くらいまで、幅広い年齢層に人気がある。

「タイムレスでクラシックなものが好き」という彼女は、テイラードジャケットやコートに定評がある。普遍性を持ちながら、つまらなくなるような装いを得意とする。「私自身、よく以前のコレクションのものを着ます。今のコレクションは仕事で毎日見ているので、あまりにも見飽きてしまうのです。なので、昔のデザインを引っ張りだして着るのですが、別に古さを感じません。私はワーキ

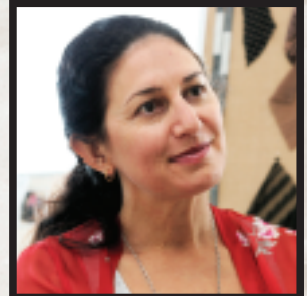
ングマザーですし、結構実用的なんです」と笑う。

NZのファッションビジネスには、夫婦によるファミリービジネスが多いが、両方がデザイナーというケースは稀

だ。「それぞれ独立したブランドを持ち、お互いのデザインに口を出さないのがうまく行く秘訣かもしれません。二人とも、クリエイティブな面では主張が強いので。それに、お互いの仕事のプレッシャーを理解できるのも良いのでしょう。ストレスにさえ注意すれば、特に問題は起こりませんよ」と仲の良さを見せる。

20年以上ファッションビジネスに携わってきたヘレンは「NZFWはこの国の為にとてもポジティブなものだと思います」と語る。「これまでファッションと関わりを持たなかったような人までがファッションを意識するようになりました。スタンダードも高いと思いますが、

それを今後も保ち続けるのは容易なことではありません。世界のファッション都市を見ても、毎年才能のある新人がどんどん現れる訳ではないのですから」と今後のNZFWの課題をあげた。



Shop
Auckland
Corner Vulcan Lane &
High Street 09-303-3735

Newmarket
4 Teed Street 09-524-6844

Wellington
Corner Customhouse &
Hunter 04-499-9010

Christchurch
230 Tuam Street
03-378-7265